

第13回 世界湖沼会議の開催

1 世界湖沼会議

世界湖沼会議は、昭和 59（1984）年に滋賀県の提唱により開かれた「世界湖沼環境会議」の後進として、世界各地で開催されてきました。

以来、同会議は研究者、行政担当官、NGO や市民等が一堂に集まり、世界の湖沼及び湖沼流域で起こっている多種多様な環境問題やそれらの解決に向けた取り組みについての議論や意見交換の場となっています。

表1に示すように、これまでに18回開催されており、次回の第19回世界湖沼会議は、ハンガリーで令和5（2023）年11月に開催されます。持続可能な湖沼管理に向けて湖沼保全の目的と湖沼の経済的・自然的利用の目的のバランスを見出すべく多様なテーマで発表・議論が実施される予定です。

茨城県においては、平成7（1995）年の第6回と、平成30（2018）年の第17回の2度、開催されています。それぞれの大会において「霞ヶ浦宣言（第6回）」、「「いばらき霞ヶ浦宣言2018（第17回）」が取りまとめられ世界に向けて発信されました。また、第6回の政策フォーラムでは「霞ヶ浦環境センター（現 霞ヶ浦環境科学センター）」の設立が表明され、その後の平成17（2005）年に開館しました。県では、会議での議論や宣言で示された行政の役割を踏まえ、湖沼環境保全対策に取り組んでいます。



図1 第6回世界湖沼会議の様子
（左）霞ヶ浦セッション、（右）霞ヶ浦環境フェア



図2 第17回世界湖沼会議の様子
（左）開会式、（右）エスカレーター（霞ヶ浦環境科学センター）

表1 これまでの世界湖沼会議開催一覧

出典 公益財団法人 国際湖沼環境委員会 (ILEC) HP

<https://www.ilec.or.jp/activities/about-wlc/#pastWLCs>

回数	開催年	開催地	テーマ
第1回	昭和59(1984)年	滋賀県 大津市	湖沼環境の保全と管理：人と湖の共存の道をさぐる
第2回	昭和61(1986)年	米国	毒性物質による汚染問題：世界の大湖沼の水質を脅かす重要問題
第3回	昭和63(1988)年	ハンガリー	富栄養化・酸性化・毒性物質汚染・モデリング・湖沼回復保全アプローチ・関係者の役割・環境問題全般
第4回	平成2(1990)年	中国	湖沼の富栄養化
第5回	平成5(1993)年	イタリア	21世紀に向けた湖沼生態系保全戦略
第6回	平成7(1995)年	茨城県 つくば市・土浦市	人と湖沼の調和－持続可能な湖沼と貯水池の利用をめざして－
第7回	平成9(1997)年	アルゼンチン	後世のためにクリーンな自然湖沼環境を守る
第8回	平成11(1999)年	デンマーク	持続可能な湖沼管理
第9回	平成13(2001)年	滋賀県 大津市	湖沼をめぐる命といとなみへのパートナーシップ：地球淡水資源の保全と回復の実現に向けて
第10回	平成15(2003)年	米国	大湖沼への地球規模の脅威：不安定で予測不可能な環境下での管理
第11回	平成17(2005)年	ケニア	湖沼流域の持続的管理に向けて：世界の経験とアフリカ大陸の課題
第12回	平成19(2007)年	インド	将来に向けての湖沼と湿地の保全
第13回	平成21(2009)年	中国	湖沼生態系の復元：世界の挑戦と中国の取り組み
第14回	平成23(2011)年	米国	湖沼、河川、地下水、海岸域の「つながり」を考える
第15回	平成26(2014)年	イタリア	湖沼は地球の鏡：生態系と人間活動の健やかな調和に向けて
第16回	平成28(2016)年	インドネシア	湖沼生態系の健全性と回復力：生物多様性と種の絶滅の危機
第17回	平成30(2018)年	茨城県 つくば市	人と湖沼の共生－持続可能な生態系サービスを目指して－
第18回	令和3(2021)年	メキシコ合衆国 (Web開催)	より良い社会に向けた湖沼のガバナンス・回復力・持続可能性

2 茨城県における世界湖沼会議の開催

(1) 第6回世界湖沼会議（霞ヶ浦 '95）

平成7（1995）年10月23日から27日の5日間、11年前に第1回が滋賀県で開かれて以来、国内で2回目、本県では初となる第6回世界湖沼会議（霞ヶ浦'95）が、「人と湖沼の調和—持続可能な湖沼と貯水池の利用をめざして—」をテーマに筑波大学大学会館等で開催されました。

会議では約70カ国、延べ約8,200人が参加し、霞ヶ浦の浄化対策や、生態系の保存、環境教育等について活発な討議が行われました。

議論の成果は最終日に「霞ヶ浦宣言」として採択されました。宣言は7項目*からなり、湖沼の持続可能な利用と環境保全に向けて、地球市民が共同で取組を強化するよう求めました。

※「人口と生物多様性に関する宣言」「開発計画が環境に与える影響に関する宣言」「知識と技術の移転に関する宣言」「パートナーシップに関する宣言」「環境教育に関する宣言」「総合的な流域管理に関する宣言」「共通の理解に関する宣言」の7項目

表2 会議スケジュール

出典 「環境白書（平成7年度版）」（茨城県生活環境部環境保全課（現環境政策課））

平成7（1995）年		午前		午後		夜
第6回世界湖沼会議	10月23日（月）	開会式	記念講演	基調講演		—
	10月24日（火）	分科会		ポスターセッション	分科会	ワークショップ
	10月25日（水）	分科会		国際湖沼環境政策フォーラム		参加者交流会
				視察		
	10月26日（木）	霞ヶ浦セッション		ポスターセッション	霞ヶ浦セッション	ワークショップ
10月27日（金）	会議総括閉会式		—			

1) 政策フォーラム

霞ヶ浦の環境保全について今後の展望を発表しました。また、霞ヶ浦の抱えるさまざまな問題を総合的に対応し、施策を円滑に推進するための組織として「霞ヶ浦環境センター（現 霞ヶ浦環境科学センター）」の設立が表明されました。

2) 霞ヶ浦セッション

これまでの開かれた世界湖沼会議ではひとつの問題に絞ったセッションは開かれていませんでしたが、「霞ヶ浦を事例にして世界の湖沼が抱えている問題を幅広く討議しよう」との狙いから開催されました。

霞ヶ浦の富栄養化防止と生態系保存、住民参加、環境教育の4課題に分かれて意見発表やパネルディスカッションが行われました。

3) 分科会

環境保全のための行政の役割、環境教育の進め方など計36の小テーマに沿って、現状報告や研究成果の発表が行われ、県や市が取り組む霞ヶ浦の浄化対策や、国が進める霞ヶ浦導水事業について報告が行われました。

(2) 第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）

平成30（2018）年10月15日から10月19日の5日間、本県で23年ぶり2回目となる第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）が、「人と湖沼の共生—持続可能な生態系サービスを目指して—」をテーマに、つくば国際会議場等で開催されました。

会議では50の国と地域からの延べ約5,500人が参加のもと、水質保全のみならず、生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するため、どのようなことに取り組むべきかについて、活発な討議が行われました。

議論の成果は、最終日に「いばらき霞ヶ浦宣言2018」として取りまとめられ、世界に向けて発信されました。宣言には、その柱として「生態系サービスを衡平に享受すること」と「生態系サービスを次世代に引き継ぐこと」の2つを掲げ、これらを達成するために関係者が行うべきことを盛り込んでいます。県では、会議での議論や宣言で示された行政の役割を踏まえ、湖沼環境保全対策を進めています。

表3 会議スケジュール

出典 茨城県県民生活環境部環境対策課 作成

平成30（2018）年		午前		午後		夜	終日
第17回世界湖沼会議	10月15日（月）	開会式	いばらき霞ヶ浦賞授与式	基調講演	湖沼セッション	レセプション	展示会
	10月16日（火）	政策フォーラム		湖沼セッション		ワークショップ	
	10月17日（水）	エクスカージョン（視察） （霞ヶ浦コース、北浦・酒沼・千波湖コース）				ワークショップ	—
	10月18日（木）	霞ヶ浦セッション				参加者交流会	展示会
	10月19日（金）	会議総括		閉会式	—		

1) 政策フォーラム

国、県及び国外の湖沼環境問題解決に関わる政策責任者がそれぞれの取組や将来ビジョンについて発表したのち、湖沼環境の保全に向けた連携のあり方などについて議論を行いました。

2) 霞ヶ浦セッション

霞ヶ浦における流域内連携を推進するために、霞ヶ浦流域関係者が霞ヶ浦の抱える様々な課題を共有し、持続可能な生態系サービスに向けた具体的な行動に連携して取り組むための討議を行いました。

3) エクスカージョン（視察）

霞ヶ浦周辺の国や茨城県の環境関連施設*等の現地視察を行い、霞ヶ浦の生態系サービスに触れ合うとともに、霞ヶ浦の水質浄化に係る取組を学びました。

※茨城県霞ヶ浦環境科学センター、茨城県流域下水道事務所霞ヶ浦浄化センター、茨城県企業局霞ヶ浦浄水場 等